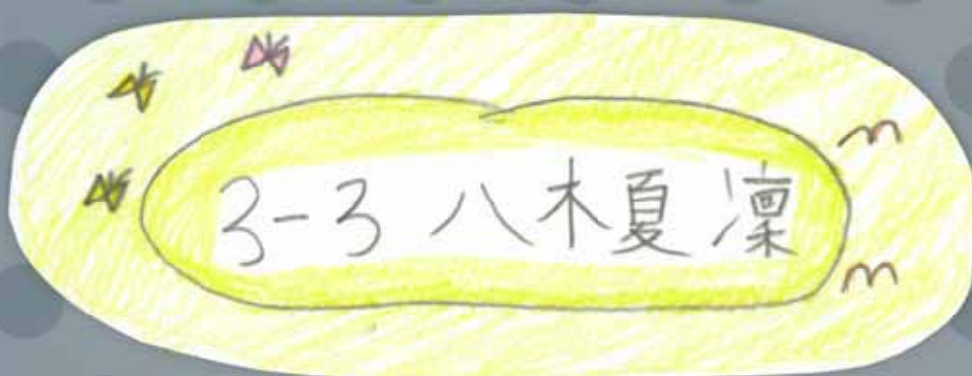




もくじ

No.

Date

1. はじめに ----- P.1
2. かいりじゅのきそ知識 ----- P.3
 - (1) 木のしくみ (2) かいりじゅの高さ・形
 - (3) 並木道の歴史 (4) かいりじゅの役わり
 - (5) かいりじゅの問題
3. 主なかいりじゅ ----- P.11
4. かいりじゅマップ ----- P.25
 - かいりじゅの特徴まとめ
5. 主な並木道 ----- P.28
6. 専門家にインタビュー
 - (1) 豊島区の専門家にきく ----- P.32
 - (2) ケヤキ並木の専門家にきく ----- P.36
 - (3) ケヤキ並木に住んでいる方にきく ----- P.42
7. 調査しながら新しく学んだこと ----- P.47
8. おわりに～ゆめの並木道 ----- P.48
- 参考文献

1. はじめに

No.

1

Date

昨年の自由研究で雑司が谷の草花を調べた時、かいろじゅの根もとにたくさんの草が生えていることに気がきました。かいろじゅがある場所には自然に緑が集まってきて、あたりの景色も空気も心地よくなる... そんなかいろじゅのふしぎな力について調べてみたくなりました。

また、この夏はびっくりするほど暑くて、夏休み中も毎日通っていた小学校のクラブの朝練が、楽しかったのだけと行き帰りがちょっと大変でした。でも、通学路にある鬼子母神のけやき並木を通る時だけは涼しくてよかったです。かいろじゅの力ってすごいなあ、もっとたくさんふやしたら、だれもかが涼しくすごせていいのではと思いました。



← 入門けやき並木保存会の方が
せっちした温度計。朝7:30
で並木の外と中で2〜3℃
ちがいがいあります。いちばん
暑いお昼ごろで日が出ている
と10℃くらいかわるそうです。

かいろじゅはもともと、旅人がその木のそばで涼んだり、果実を食べたりして休むために作られたと聞いたことがあります。池袋の駅前など、かいろじゅが少なくとても暑いので、現代でも同様に道を歩く人たちが元気になれるようなかいろじゅをふやせたらいいな、と思って、

もっと大きな葉っぱの木にしたら日かげも大きくなるのにはと言ったら、母が、「でも、木の近くの建物にいる人にとっては、おそろいかが大変になるのかもしれないよ」と答えました。

「おいしいベリーがなる木があったらいいな」と言ったら、「すてきだけど、鳥さんや虫さんと競争になるかもね」と・・・きっと、今のかいろじゅの状态にも、いろいろ深いリゆうがあるのでしょう。

まずはかいろじゅの歴史や木のしゃるいについて勉強して、それから町に出てどんな木が植えられているか調べて、さいごに専門家の方にもお話をうかがってから私のりそうのかいろじゅ並木道について計画してみようと思います。

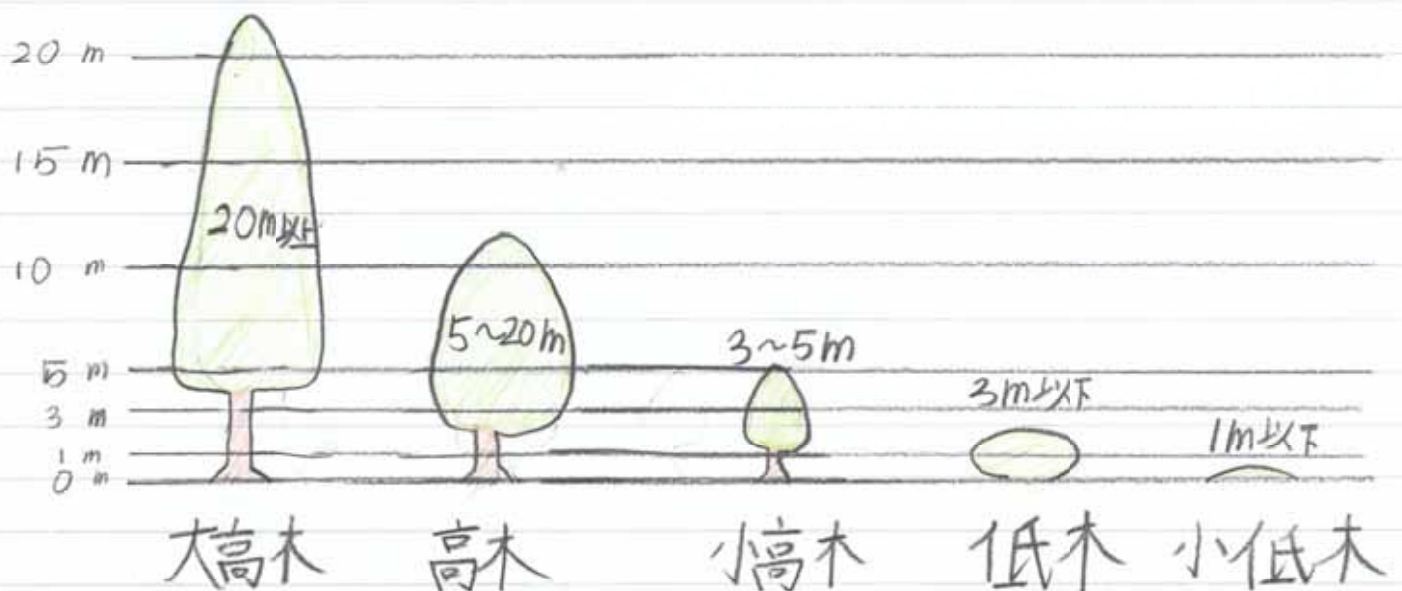
2. かいりじゅのきそ知識

(1) 木のしくみ



みきの中は、中心から「木部(心材、辺材)」「道管」「形成層」「篩部」「樹皮」の順で並んでいます。内側の多くを占める「木部」は実は死んだ組織で、大きな木を支える役割を果たしています。根から吸い上げた水やミネラルは「道管」を通して木全体をめぐり、葉で「光合成」によって作られた栄養は「篩部」を通して木全体に供給されます。生きている組織は表皮近くにあるので、皮がはがれたりすると木自体に大きなダメージが。また、栄養は葉での光合成にたっているなので、剪定で枝を落とすすぎても木が弱ります。

(2) いろいろな樹の高さ・形



高木の自然樹形

形	木	形	木
円錐形 	イチョウ、メタセコヤ、ヒマラヤスギ、モミなど	球形 	クスノキ、ホトタケ、エノキ、マテバシヤ、モミ、ハルニシなど
円柱形 	ホノブナ、イヌスギ、カイツギ、カイズナなど	逆卵円形 	コブシ、シロツグ、トネリコ、ニセアカシアなど
卵円形 	ユリノキ、プラタナス、モジ、バブウ、トウカエデ、ヤマモモ、ハダス、キタバタなど	盃状形 	ケヤキ、サクラ、トチノキなど

(3) 並木道の歴史

世界で一番最初の並木道といわれているのが紀元前10世紀のヒマラヤ山麓に作られたグランド・トラंक道。カルカッタからアフガニスタンの国境のペシャワールまで2,100km続く道の一部に並木が植えられていたそうです。

中国では、紀元前5世紀の周代には郊外に並木道があり、紀元前3世紀に秦の始皇帝が街道を整備して青松を植え、唐代の都にはニレやエンジュの並木があったといえます。

日本では、6世紀末~7世紀初に、滋賀県大津市の建物の水路に沿ってモモが植えられていた跡が見つかっています。古代、モモには魔除けの力があるとされていました。

そして759年、主に仕事で道を行き来する人の休息のための木陰と、飢えを凌ぐための果実を提供す

るべく、「畿内の宿場町のある17つの街道の両側に果樹を植えること」というおふれが"出ました。その後、唐の影響を受けて、藤原京や平城京にタチバナやヤナギ、平安京でもヤナギとエンジュが"植えられました。1575年、織田信長が"道奉行"を任命して、東海道と東山道にマツとヤナギを植え、地元住民に管理させました。上杉謙信も街道に、マツやカシワ、エノキ、ウルシなどを植えさせたといわれています。

1601年、徳川家康が"五街道の整備"をして、マツバスキを植え、その後江戸幕府によって保護されていたのですが、明治になると各地で伐採されてしまいます。

明治12年(1879)、ウィーン万国博覧会を視察してニヒアカシアとシンジュの種子を持ち帰った農学者の津田仙が、かいろしゃについて、「造化の配割にしたがって、天地の化育をたもつるもの」という言葉を残します。(「自然が万物を育てる」という自然の理にかなない、その自然の営みを人間が"助ける"ものである、という意味。)これ

か"見直され、か"いろしゅにふさわしい木を選定して、1906年に出されたのが"東京市行道改良案"。選ばれた木は、アオギリ、アカメカシワ、イチウ、エンジュ、サクラ、スズカケノキ、トウカエテ、トチノキ、トネリコ、ミズキ、ヤナギ、ユリノキでした。

大正時代に入ると、絵画館前のイチウ並木と表参道のケヤキ並木が整備されます。大戦後の復興では、避難路と美的景観の両側面からか"いろしゅが評価され、大気汚染に強い常緑広葉樹のマテバシイやクスノキ、シラカン、ウバ"メカシなどに注目が集まります。1980年代あたりから、ハダス"キやヤマボウシなど"花のある木や、高木と低木を組み合わせてより自然な雰囲気を出す植え方が流行し、現在に至ります。

ヨーロッパでは中世の巡礼街道に、それぞれの土地固有の植物が植えられていました。ローマではイトスギ、ドイツではホフラ、オランダではニレやトネリコ。また、王宮からのひる長い直線道路にか"いろしゅを植えることは、街をととのえ、重要な建物をきわだたせる効果がありました。

多くは今でも美しく管理されて残っています。

各時代、各場所の人間の暮らしに寄りそうように
植えられてきたかいりじゅ。昔も今も、選ばれる木に
あまり違いがなしいことに驚きました。対して、人間の
生活や意識は大きく変化しているので、かいりじゅ
へのえいしょうが気になります…。

(4) かいろしゅの役わり

- ・町並みに統一感とうるおい、季節感を与え、住んでいる人や訪れる人に安らぎや幸福感をもたらす。
- ・日差しをさえぎり、さらに葉からの蒸散によって涼しい木陰を作り出す。
- ・大気汚染物質やCO₂を吸着、吸収、分解する。
- ・車道と歩道を分け、また道に沿って視線を誘導することで、歩行者と車利用者双方の安全をはかる。
- ・対向車のライトを和らげると共に、緑の心理的効果によって車利用者の緊張やストレスを緩和する。
- ・騒音を和らげる。
- ・災害時に延焼や建物の倒壊から町を守る。
- ・生態系の保護や形成にかかわる。
- ・人がかいろしゅを通して自然と触れ合うことで、その大切さに気づき、自分たちの生活を客観的に見られるようになる。

(5) かいろいろの問題

- ・落葉や落果のそうじに労力、予算がかかる。
(歩道や軌道の落ち葉をそのままにしておくと、見た目に美しくないだけでなく、排水口がつまりたり人や車がすべったりという危険がある)
- ・害虫が発生する。
- ・鳥によるふん害が発生する。
- ・一部のマナーの悪い人間が、植えこみにゴミを捨て、汚い空間になっている。
- ・成長しすぎた枝葉が信号や交通標識を隠してしまったり、電線に接触したりすると危険。
- ・強風で折れた枝や葉が落ちてくると危険。
- ・日光がさえぎられすぎると、快適に暮らせな
きちんと管理されていないと、やぶ化して見通しの悪い場所ができて治安に悪い場所になる。
- ・適切な世話がなされず、弱ったかいろいろが並んでいる光景は、住民や通行人の気持ちを暗くする。

3. 主ながいろいろ

(1) ケヤキ

グリーン大通り、
雑司が谷 大門 けやき並木 など



〈みき〉

〈葉〉

宮城県、福島県、
埼玉県の木

若い木は灰色がかっているが、
年とすると皮がまたさらに
むける。内側は赤い。

糸細長く、鋸歯が
カーブをえがく

ニシ科ケヤキ属 / 落葉広葉樹 (国産で最大)

樹高: 20~30m / 分布: 北海道中部以南

花期: 4~5月 / 果期: 10~11月 / 紅葉: 10~11月

〈名の由来〉ひときわ背が高く美しい: 「けやけき木」から。

〈使われ方〉防風林、建材、楽器の材料など

〈豆ちし〉7年輪にそって道管がならぶ。毎年新しく道管ができた枝から芽ぶく。

〈長所〉葉ずれの音が涼しくて、じっさいに木陰が涼しい。若葉の黄緑~夏の濃い緑~秋の茶色(寒い地方では黄色や赤に色づく)と色の変化が美しい。病虫害が少ない。

〈短所〉樹液、花序、落葉のそうじが大変。

(2) イチョウ

目白通り、明治通り など



東京都神奈川県
大阪府の木

〈みぎ〉
こげ茶色で、深くひ
われる。

〈葉〉
老木ほど切れ込み
が深い

イチョウ科イチョウ属 / 落葉広葉樹

樹高: 10~30m / 分布: 北海道南部~九州

花期: 4~5月 / 果期: 10~11月 / 黄葉: 10~11月

〈名の由来〉葉の形から「鴨脚(ヤーチャオ)」と中国で名付けられたものかなまった。

〈使われ方〉まな板、しょうぎ板、食用(銀杏)

〈豆ちぎ〉約4億8000年前の地球にも生えていたことから、
「生きた化石」と呼ばれる。

〈長所〉秋の紅葉が美しい。火事になると水を出して延火を
をくいとめる。剪定に強い。乾かそうに強い。

〈短所〉果実(銀杏)がくさい。葉に油分が含まれて
いるので落ち葉が雨にぬれるとすべる。湿気に弱い。

(3) プラタナス(スズカケノキ) 新目白通り、早稲田通りなど



池袋のかいりゅうでよく
みかけるのは
モミジバズカケノキ



〈みき〉
皮がはがれて迷彩
柄になる。



〈葉〉
3~5つに裂ける

スズカケノキ科スズカケノキ属 / 落葉広葉樹

樹高: 20~35m / 原産: 東ヨーロッパ

花期: 4~5月 / 果期: 10~11月 / 黄葉: 11月ごろ

〈名の由来〉山伏が身につける「金鈴懸」に似た実の形から。

〈使われ方〉緑陰樹

〈豆ちしき〉世界四大並木樹のひとつ。(あと3つはニハトノキ、シナノキ)

〈長所〉生命力が強く、寒さ、剪定、やせた土地、大気汚染などにも耐える。成長がはやい。大きな日陰がでる。かいりにヨーロッパ風のおしゃれな雰囲気が出る。

〈短所〉落ち葉のそうじ、枝の処理が大変。葉のうらにある細かい毛がくしゃみやかゆみにつながる。

(4) ユリノキ

グリーン大通り など



葉が平たいゆずら
しいかんたんで
みぎわめやすい

〈みき〉
黒っぽく、糸状にたてに
裂けあかん

〈葉〉
はんてんのような形から
「ハンテンボク」という
別名も。

モクセイ科ユリノキ属 / 落葉広葉樹

樹高: 20~60m / 原産: 北アメリカ

花期: 5~6月 / 果期: 10~12月 / 黄葉: 11月ごろ

〈名の由来〉学名のギリシャ語から大正天皇が命名。

〈使われ方〉建材、楽器や家具の材料、食用(はちみ)

〈豆ちき〉チューリップやレンゲに似た花が咲くので

「チューリップ」や「レンゲボク」とも呼ばれる。

〈長所〉成長がはやい。まっすぐに伸びて、堂々とした木形になる。

新緑も黄葉も美しい。

〈短所〉大木になるが剪定をきらうため、道幅がせまい場所には不向き。強風、日あたりの悪さにやや弱い。

(5)クスノキ

グリーン大通り、日の出通り



兵庫県、佐賀県、
熊本県、鹿児島県
の木

〈みき〉
縦にバリバリと裂ける
おせんべいのような

〈葉〉
先のとがツナグエん形
ふちが波うつ

クスノキ科クスノキ属 / 常緑広葉樹

樹高: 20m以上 / 原産: 日本

花期: 5~6月 / 果期: 10~11月

〈名の由来〉「薬の木」「奇しき木」などから

〈使われ方〉防虫剤、薬、建材

〈豆ちき〉湿気に強くくりにくいため、舟や仏像、
鳥居などの材料として使われる。

〈長所〉成長がはやく、寿命も長い。ご神木になることも
多い。枝がよくしなるので、大木だが強風に強い。

〈短所〉秋の落葉はないが、春に新芽が出ると
古い葉はおちる。アオシジメの幼虫だけに弱い。

(6) サクラ (ソメイヨシノ)

ネ申田川 そいなど



日本の国花。

木枝は低い位置で
分岐し平たい木型形
になる

<みき>

横向き、点系線のように
なびなびわれかいる

<葉>

糸田かい鋸歯と、葉柄に
ある蜜月泉かいとくちよう

バラ科サクラ属 / 落葉広葉樹

樹高: 4~20m / 原産: 日本

花期: 3~4月 / 果期: 5~6月 / 紅葉: 11月ごろ

<名の由来>江戸染井村(豊島区馬込)で生まれた種。

<使われ方>和菓子の木型、樺糸細工、食用(花や葉の塩づけ)

<豆ちしき>日本中のソメイヨシノは同じ一本の木から作
られた。同じ温度で開花するので桜前線などの予想が立てられる。

<長所>花や新緑で目を喜ばせてくれる。

<短所>剪定したり枝が折れたりするとそこからくさりや
あい葉もみきも虫害にあいやすい! 寿命が短い。

(ソメイヨシノは約60年)

(7) トウカエテ



げき場通いなど



最近、いろいろと
して植えられ
ふえてきた。

〈みき〉
はがれでさくれている。
外は赤茶色、内は赤茶色。

〈葉〉
ろつに裂ける。ひんはん
に剪定された枝の葉ほど
深い切れ込みになる。

ムクロジ科カエテ属 / 落葉広葉樹

樹高: 10~20m / 原産: 中国

花其月: 4~5月 / 果実其月: 9~10月 / 紅葉: 10月ごろ

〈名の由来〉唐(中国)からやってきたカエテ(カエルの手)な
うな葉の木なので。

〈使われ方〉盆栽

〈豆ちき〉冬もあまり寒くならず夜も明るような都市部
ではまれに紅葉しないこともある。

〈長所〉あまり成長が早くないので管理しやすい。紅葉
の色が黄色~橙色~赤と幅があてきれい。非風ガスに強い。

〈短所〉潮風が苦手。アブラムシがつきやすい。

(8) モミジバフウ



最近、かいろじゅとしてモミジより人気があるという。



〈みき〉
たてに深くわれる、
コルクっぽい質感。

ちとせ橋 近くなど



〈葉〉
モミジバフウは互生、
カエデ科の木の葉は
対生

フウ科フウ属 / 落葉広葉樹

樹高: 25~40m / 原産: 北アメリカ

花期: 4~5月 / 果実期: 10~11月 / 紅葉: 10月ごろ

〈名の由来〉モミジのような形の葉のフウ(楓)。もともと中国で「楓」の字はフウ科の木に使うものだったが、日本ではとりかえられてカエデ科にあてられてしまった。

〈使われ方〉香料(樹液)

〈豆ちしき〉紅葉すると葉からいい香りが出る。

〈長所〉生命力が強く、剪定や排気がスにも強い。紅葉がとってもあざやかな赤色になって秋の青空にはえる。

〈矢豆所〉大きくなるのでせまい場所には向かない。

(9) ボダイジュ

明治通りなど



明治通りにあるのは
「ツリボダイジュ」。



〈みき〉
たてに細かい切れ目
が入る。



〈葉〉
ハート形で、明るい
黄緑色。

シナノキ科シナノキ属 / 落葉広葉樹

樹高: 10 ~ 20m / 原産: 中国

花期: 6月 / 果実期: 8 ~ 10月 / 紅葉: 10月ごろ

〈名の由来〉お釈迦様がその木の下で小憩をいただいたという

クワ科のインドボダイジュの代用になったことから。

〈使われ方〉ロープや(樹皮)数珠(実)、葉(花)

〈豆なき〉同じようなハート形の葉のシナノキ科の樹木
は、ナボダイジュ、マボダイジュ、オオボダイジュなどがある。

〈長所〉葉がかわいらしく、かろやかな印象。どんな土でも
成長する。(本当はえいようと湿り気のある土が「好き」)

〈短所〉暑さにやや弱い!

(10) シマトネリコ

サンシャインの通りなど



がいろいろとしても
庭木としても最近
大人気。

〈みき〉
ところどころ皮が
はがれる。

〈葉〉
すべすべしていて
少しツヤがある。

モクセイ科トネリコ属 / 半常緑広葉樹

樹高: 10~20m / 原産: 東南アジア

花期: 5~6月 / 果実期: 10~11月

〈名の由来〉樹皮を煮て練たものを写経などに使った「練り濃から」という説も、樹皮につく虫の分泌物の滑りやすさのために使った「戸滑り粉から」という説もある。

〈使われ方〉がいろいろ庭木

〈長所〉成長が早い、病害虫に強い。葉音が涼やか。

〈短所〉寒さと日照不足に弱い。木のふんいきは涼しいが

だが葉自体は小さいのであまり日陰ができない。

半常緑なので、落葉の時期にも新芽の時期にも

葉が落ちることがある。

(11) ヤマモモ

グリーン大通りなど



かいろじゅはたいい
オスの木。



〈みき〉
白っぽくなめらか。
コブがでやすい。



〈葉〉
糸田長く、全葉脈。枝先に
まとまってつく。

ヤマモモ科ヤマモモ属/常緑広葉樹

樹高: 4~15m/ 原産: 中国、日本

花期: 3~4月/ 果実期: 6~7月

〈名の由来〉山に生えている、桃によく似た実がなる木からまたと
いう言葉と、「たくさん実がなる」という意味の山百々(やまもも)から
という言葉がある。

〈使われ方〉漁もうなどの染料(樹皮、シロムや果実
酒(実))

〈長所〉乾燥、強風、やせた土地に強い。葉がみっ
しりつくので日陰ができる。

〈欠点〉メスの木がかいろじゅになっていると、落ち
た果実で道路や通行人が汚れるかのうせいも。ハマキムシ
やコブ病には弱い。

(12) ハナミズキ

グリーン大通り、山手通りなど



90年代のガーデニングブームのころから人気が出て広まった。

〈みき〉
たてしに細かく裂ける。

〈葉〉
葉脈がカーブして長くのびる。

ミズキ科ヤマボウシ属 / 落葉広葉樹

樹高: 5~8m / 原産: 北アメリカ

花期: 4~5月 / 果実期: 9~10月

〈名の由来〉春に枝を切ると水のように樹液が出るミズキの仲間で、花のきれいな種類なので。

〈豆知識〉大正時代、東京の市長がワシントンヘソメイヨシノをプレゼントしたお返しにおくられた。

〈見きわめ〉ヤマボウシとよく似ているが、ヤマボウシのみきはまたらにはがれ、葉が小さめで、ちがって皮うつ。

〈長所〉赤やピンク、白の花(正確には総苞片)が美しい。

成長が"おそい"ので"剪定コスト"が"おさ"えられる。

〈短所〉乾燥に弱く、うどんこ病にかかりやすい。花が上を向いて咲くので、木の成長とともに見えづらくなる。

(13) ハルニシ

サンシャインシティ 北側など



アイヌの人々にとって
は信仰の対象である
大切な木。



〈みき〉
不規則にぬれた内側
はオレンジ色。



〈葉〉
葉は左右非対称で、
鋸歯が二重になる。

ニシ科ニシ属 / 落葉広葉樹

樹高: 15~25m / 原産: 日本

花期: 4~5月 / 果実期: 5~6月 / 紅葉: 10月ごろ

〈名の由来〉皮の内側がぬるぬるしている「滑れ(ぬれ)」のうち、春に花が咲く種類。

〈豆知識〉日本全国に植えられているが寒い地方のものほど大きくなる傾向がある。

〈見きわめ〉アキニシとよく似ているが、ハルニシの葉はたての長さが1.5~2cm、アキニシの葉は2.5~5cm。

〈長所〉成長が早い。凍乾燥に強い。

〈短所〉湿気が苦手。

(14) カイツカイブキ

サンシャイン通りなど



刈らずにおくと
もえあがる火のような
樹形になる

〈みき〉
茶色～灰色で、細かく
さけてはかれる

〈葉〉
糸状でうろこ状
になる

ヒノキ科ビャクシン属 / 常緑針葉樹

樹高: 4～10m / 原産: 日本

花期: 4～5月 / 果実期: 5～6月

〈名の由来〉大阪の貝塚市で生まれたイブキの園芸種。
イブキとは古代、土器の底にこの木の枝をしいて料理
をしたので、ゆげのでる木＝「息吹き木」から。

〈豆知識〉剪定で切りすぎたり弱ってきたりするとトゲ
トゲのあとで葉を出す。

〈長所〉公害や乾燥、寒さに強い。病害や虫害も少ない。剪定で
いろいろな樹形にすることが出来る。

〈短所〉日光が足りないと弱る。梨に発生する赤星病
を媒介してしまうため、植える場所に制限がある。

□ 道の両側 ○ 道の片側

イチ：イチョウ
 カツ：カツラ
 クス：クスノキ
 ケヤ：ケヤキ
 コブ：コブシ
 サク：サクラ
 サル：サルスベリ
 シマ：シマトネリコ
 シラ：シラカシ
 トウ：トウカエデ
 ナン：ナンキンハゼ
 ネズ：トウネズミモチ
 ハナ：ハナミズキ
 ハル：ハルニレ
 プラ：プラタナス
 ボダ：ボダイジュ
 マテ：マテバシイ
 モミ：モミジバフウ
 モモ：ヤマモモ
 ヤマ：ヤマボウシ
 ユリ：ユリノキ

カイ：カイヅカイガキ





この自由石研究
内での番号

〈かいろじゅの特徴まとめ〉

	50音順	常緑/ 落葉	成長	耐乾性	耐風性	耐陰性	病虫害	花色	実	紅葉色
(2)	イチョウ		速	○	○	×	少			
	エリシユ		速	△	△	△	中			
(14)	カイツカイヅキ		中	○	○	○	少			
	カツラ		速	△	△	△	少			
(5)	クスノキ		速	△	△	△	少			
(1)	ケヤキ		速	△	○	△	少			
	コブシ		速	×	×	△	少			
(6)	サクラ		速	△	○	×	多			
	サルスベリ		速	○	△	×	多			
(10)	シマトネリコ		速	△	○	×	少			
	シラガシ		速	△	○	○	少			
(17)	トウカエデ		速	△	○	△	少			
	トウネスミモチ		速	○	?	○	少			
	ナンキンハゼ		速	○	○	△	中			
(12)	ハダスギ		中	△	×	○	少			
(13)	ハルニレ		速	○	○	△	少			
(3)	フタタス		速	○	×	×	中			
(9)	ボダイシュ		中	○	○	△	中			
	マテバシイ		中	○	○	△	少			
(8)	モミジバフウ		速	○	?	△	少			
	ヤマボウシ		速	○	○	△	少			
(11)	ヤマモモ		中	○	○	△	中			
(4)	ユリノキ		速	△	×	×	少			

5. 主な並木道

(1) 目白通り

ゆるやかなカーブなので、黄葉の時其肌は葉が重なりあって見事。何かの理由で木がなくなった場所にはまたイチウの若い木を植えているが、目白駅近くで、ヤマボウシやカツラになる場所も。目白駅以西、植込入みの「ツツバン」がなくなるが、近所にお住まいの方が植えたであろうものがバラエティ豊か。(ヤブラン、ハラン、ヤドリフカノキ、カエデ、デュランなど)



(2) 明治通り

南の大久保のほうではプラタナ並木。途中でユリノキになり、神田川に交差するあたりからイチウ並木になる。昔ユリノキだったところが一部背の低い木に植え替わっている。(母談) 目白通りと交差するちとせ橋の上から、イチウの梢にさわることができる。



人も車も多いので、木が"かんは"っている感じが伝わってくる。

(3) グリーン大通り

名前の通り、緑と木陰でいっぱい。大きな樹木が多く、人は多いけれど、ほっとする並木道。車道側にユリノキ歩道なかはほとにケヤキが植わり、緑のドムになった下を歩くことが出来る。他にも大きなクスノキやエンジュ、マテバシイやヤマモモなど。バス停のそばにはハバズキ。



(4) 日の出通り

片側は大きくて、いっはなクスノキ(高速より大きい)が並び反対側にはプラタナス。

(5) 鬼子母神大門ケヤキ並木

一足踏み入れると時間の流れも体感温度も変わる、地元の人に450年愛されて守られている並木。



(6) 学習院 椿の坂

片側に学習院の緑、反対側にサンギンハセとケヤキ。紅葉も美しい。

(7) サンシャイン60通り

たくさんの人でにぎわう歩行者天国にシマトネリコが。えあの通り、木なんてあつたの？と言われることもあり、ちょっとかわいそう。



(8) サンシャイン通り

カイツカイブキがたくさん。日陰はないが、密度の高い濃い緑色にほるとする遊歩道にクスノキなど大きな木が。



(9) 山手通り

平成27年3月に整備が終了した渋谷〜荏原町の区間は、広くなった歩道に、カツラやコブシ、ハダスギなどあまり背の低い木が植わっているが、植込みも幅広く、中央の緑地帯も豊かなので気持ちがいい。





(10) 劇場通り
風情のあるトウカエテの並木。

(11) 池袋乱歩通り
レトロなオレンジ色の街灯と
ハダスギが続く並木。



(12) 新目白通り
椿山荘の下あたりから西へプラタ
ナス並木が続く。時々空白地帯もあ
る。心配になるが、なんとかつながら
て、山手通りにまじわる。



(13) 日近衛邸のケヤキ
並木ではないけれど、近隣に住む
人が木を尊重して、人間の暮らしの方
を変化させた例として。日近衛邸に
あったケヤキで、樹齢は100年を越え
ているそう。木を動かすのではなく、車
道を曲げている。



6. 専門家にインタビュー

No. 32

Date . . .

(1) 豊島区の専門家にきく

豊島区にはたくさんの魅力的な並木道があることがわかりましたが、まだまだ謎もあります。そこで、豊島区都市整備部公園緑地課のかいりしゅご担当の方に、この質問させていたたきました。

Q: 背の高いかいりしゅが小さな地面に倒れずに植わっているのはどうしてですか？

A: 一般的に地上部に見えている枝と同じくらい大きさの根が地下に張っているといわれています。

Q: 水やりなどのお世話はしなくても大丈夫なのでしょうか？

A: 通常かいりしゅの水やりは不要です。雨水、地下水にでい
要な水分を補給することができます。

Q: 枯れてしまったらどうするのですか？

A: 枯れ木は見つけ次第、伐採しています。

Q: かいりしゅの高さや間隔にきまりはありますか？

A: 高さ4m以上の高木の場合、樹高の上限は樹種ごとに異なりはしますが、地面からの枝の高さは2.5m以上になるよう定められています。標準的な植栽間隔は6~8mです。

(東京都建設局 道路工事設計基準)

Q: どんな計画をして、かいろじゅにする木を選ぶのですか?

A: 地元の意向、成長速度、環境^{※1}への適応力を考慮しています。

Q: かいろじゅにえらぶ木の、今の流行や、今後多く選ばれそうな木があったら教えてください。

A: 枝が横に広がらない品種のかいろじゅが管理上の面から好まれています。サクラ(天の川)、ケヤキ(ムサシ)など。

Q: かいろじゅにする木は、どんな所で育てられて、どうやって運ばれてくるのですか?

A: 東京都内にも樹木の苗を生産している圃場^{※2}があります。根にある程度の土をつけた状態で運びます。

根に麻布を巻いて保護して運ぶ場合もあります。(根巻き)

Q: かいろじゅの根元に植わっている植物にはどんな種類があって、どうやって選ぶのですか?

A: 豊島区ではサツキ、オムラサキツツジの2種を多く植えています。管理の手間が少なく、生命力の強い品種が適しています。

Q: かいろじゅに関わるお仕事で、大変なところは？

A: 倒木を出さないこと、安全を第一に考えているため管理が大変です。(台風や積雪の季節には事前に剪定を行う、枯れ木がないか調査するなど)

Q: 豊島区のおすすめのかいろじゅ、並木道を教えてください。

A: グリーン大通り(東池袋一丁目)

: ケヤキ、クスノキ、ユリノキなど多数

鬼子母ネ参道(雑司が谷三丁目)

: ケヤキ(東京都指定天然記念物あり)

神田川治い(高田一、二丁目): サクラ

Q: かいろじゅをなくして、自転車用の道路にしてはという意見もあります(個人的にはさみしく思います)か、どうお考えですか？

A: 豊島区は東京23区でも緑被率^{*3}が少ない区であり、これ以上の緑の減少は環境面および景観面から見ても好ましくないと考えております。

Q:これから豊島区で、かいろしゅに関する計画かあれば教えてください。

A:池袋駅前のグリーン大通りでは、樹木の形か不揃いである状態か長かったため、剪定方法を見直し、形を整える計画か検討されています。

ありがとうございます！

※1:環境から受けるストレスのこと

※2:畑や農園のこと

※3:地面か緑でおおわれている割合のこと

(2) ケヤキ並木の専門家にきく

「1. はじめに」にも書いた、ふしぎな力のある、鬼子母神大門ケヤキ並木。実際に並木の中にお住まいになりながら並木道の保存に尽力されている鬼子母神大門ケヤキ並木保存会の田中さんにお話をうかがいました。

Q:「鬼子母神大門ケヤキ並木と、その保存会の活動について教えてください。」

A: 今から約450年前、本能寺の変の時代にお寺に奉納されてから今まで生き残っているとても貴重な並木です。幅は7m、長さは100mくらいあります。

お城の建材としてほしいという話があっても心ある人たちが反対して守り、第二次世界大戦の空襲でも燃えずに残りました。

昭和15年、地元の有志によって保存会ができて、並木のケヤキは東京都の所有物となり記念物に指定されました。が昭和20年~49年に上下水道を通したなどによって、いたみ、19本あったケヤキのうち15本を伐採することになってしまいました。

残った4本は今も都の天然記念物で、勝手に枝を切ったりすることはできません。大切に守られています。

その後、さまざまな努力と協力のもと、少しずつ若いケヤキ（こちらは豊島区の所有）を植えなおすことができて現在、昭和15年当時の合計19本までもとすことができています。（木が枯れても、根は20年近く生きている上、他にもいろいろな事情があって前と同じ場所に植えるのがむずかしいこともあり、大変な道のりでした）

保存会は豊島区や東京都とのやりとりの窓口となり、住民の方々と協力して並木の見守りを続けています。

私は七代目の代襲で、並木沿いで生まれて、今も暮らしています。

Q: ケヤキ並木のいいところはどこですか？

A: 人の心と体をいやす心地よさはあはらしいです。遠くからでも目に入ってくる緑、並木の中のもれび、耳から入ってくる葉ずれの音や鳥の声、そして体感できる風の涼しさ（神田川から吹き抜かってくる冷風がケヤキの葉をゆらすのたそうです）

朝早く、鶏の鳴き声と鳥のさえずりで目がさめ、しばらくすると住民の皆さんが石たたみの上の落ち葉を竹ぼうきではく音が聞こえてくる。夏はそこに蟬の合唱も加わる。目をつぶっていても時間がわかるんです。ちなみに石たたみやれんがは、落ち葉そうじしやすいですよ。アスファルトでは竹ぼうきの先がいたんでしうんです。

Q: ケヤキ並木の大変なところはどこですか？

A: やはりそういか大変です。春先に樹液や花序、秋には落ち葉と季節によって木からふりそそぐものがあります。都からの補助で竹ぼうきとゴミ袋を購入しています。区の方も清掃をしてくれるのですが、毎日のことなのでとても追いつきません。

朝と夕方だけでなく、落葉のシーズンには一日3回はくこともあるし、道だけでなく、屋根のそうじも必要で、雨どいも詰まってしまうこともあります。春先にアブラムシが大量発生すると家の窓や車がうすみどり色にそまることも。(おくおきをします)

Q: 並木の途中にある、みきかい途中で折れてフタかいされている木は元気なのですか？

A: 者の天然記念物の4本のうちの1本で、台風で枝が折れてしまったものです。(その時に年輪を数えた人によると、樹齢600年以上だそうです)

東京都の樹木医さんにみてもらったところ、枝先の葉もかなり大ききかいがあるので、なんとか元気とのことでした。

Q: ケヤキの水やりや月肥料など、定期的なお世話はしているのでしょうか？

A: 根が地面の深いところまでもぐって水を吸える状態なので、基本的には必要ありません。根がいたんだ時に、特別に月肥料をやることはあります。

区の木に関しては、粘土質の土で根回りをかため、水が行くような流れをつています。

Q: この夏の猛暑でケヤキは大丈夫だったのでしょうか？

A: 特にえいきはありませんでした。木の元気がなくなるのは、工事で根を傷つけてしまったり、多すぎる交通量で根がいたんだり、人間の者がかい原因のこと

かほとんどです。根がいたむと、すぐにえいきょうかが出て、1本のついた側だけ枝が枯れてしまうことも。

Q: 観光スポットにもなっているのに、ゴミもほとんど落ちてなくてキレイなのはなぜ？

A: 長いこと静かに暮らしの中にあたけやき並木ですが、ここ10年…特に4〜5年くらいのあいだに、古いものを見直す流行や、東京メトロ雑司が谷駅かてできたこと、インターネットの発達などにより、外国人の方も含め観光客がふえました。並木に住んでいる人には生活の場なので、その分そうしか行き届くというのもあります。か、ゴミを捨てていくような方はほとんどいません。不特定多数の方が出入りする場所ですが、お互いにマナーを守ろうという気持ちか自然にはたらいっているのでしょう。

Q: 保存会として、かんはっていることは？

A: 長い歴史を持つ並木ですが、またまた資料らしいものかありませんでした。並木のいいところ(価値)を形にして、資料として積み重ねています。(並木の内

外の温度調査場のひとつ) 中の人の主張だけでなく外の人の意見や応えんも、とても大切です。目と耳をこらして、守るものをとりにほさないように気をつけています。そこにあるのがあたりまえだと思っていたものがあっけなく一瞬でなくなってしまうことがあるので。

Q: これから新しく並木道をつくるときに、どんなことが大事だと思いますか？

A: 実際にそこに住もう、生活する人の意見をきくことが一番だと思います。

Q: このケヤキ並木は、これからどうなっていくといいと思いますか？

A: 「何も変えず、何も変わらず、ずっと今のままであってもらえたら」と考えています。

450年間、人間はケヤキと「共生」させてもらってきました。自然と人間が対等であるように、これまでなくてはならないと思います。

ありがとうございました！

(ろ)ケヤキ並木に住んでいる方にきく
鬼子母神大門ケヤキ並木に住んでいる同じ小
学校のお友達とお母さんに、子供視点・大人視点
それぞれの話をうかがいました。

Q: ケヤキ並木沿いに住んでいてよかったことは？

A: (子) 自然をかんじられること。緑や鳥とふれあっ
ているかんじがいい。

A: (親) 同上。遠方の友人が遊びにくる時、本当
にここ都心なの？と言うくらい、緑があって静かな
ことにびっくりされます。夏は参道に入ると涼しい
です。個人的には緑がきれいな新緑の時期が
好きです。

Q: ケヤキ並木沿いに住んでいて大変なことは？

A: (子) 野良猫や地域猫が、木の根元をトイレ替わ
りにしちゃうこと。夏は匂う！

A: (親) 同上。土が少ないから、猫からしたら自然
なことなのでしょうね。

花序や落ち葉のそっちは大変ですが、ご近所さんと

「今年は葉っぱ少ないね」とか「大変よね」といいながら
「する掃きそうじ」は、季節をかんじられていいもので
す。無心で「竹ぼうきで落ち葉を掃いて、きれいにな
った参道をみると気持ちもすっきりします。すぐまた落
ち葉が落ちてきちゃうけど」。

「掃いても掃いても終わらない。これって修行だね」と
ご近所さんが笑って言っていました。

Q: おそうじは毎日するのですか？

A: (親) 参道に面したお家の方は、落ち葉の季節
には毎朝されていると思います。決まりは特に
なく、できる時に自宅前やお隣さんの前あたりを自
由におそうじする、という感じですよ。子どもと一緒に
お隣さんの前を掃いたりしていると、「ありがとう」と
お礼を言ってくたさったり、時々子供に小さなお菓子
をくれたりします。参道ならではのコミュニケーション
ですよ。

Q: 落ち葉で「焚き火」をすることは？

A: (親) 焚き火はできないです。ご近所さんのお話

では、30年くらい前までは鬼子母神の境内で焼き芋をしていたそうです。

Q: 鳥はたくさん来ますか？

A: (親) 鳥はよく来ていて、朝は鳥のさえずりがします。毎日当たり前のことになってたので「いいにとめていなかったのだから、インタビューをうけて「あ、そういえば鳥のさえずりがいいな」と改めて思いました。

また、今年の夏は猛暑すぎてセミが少ないらしいです。(何年たとうるさくらい聞こえるのですから)

Q: 観光客の方も多いのには並木がいつもキレイなのは？

A: (親) ゴミを捨てていくような人はほとんどいません。

皆さんケヤキを見て楽しんで、大事にして下さっています。

もしゴミが落ちていたら、住民の方がそと片付けているかと思います。いつもキレイに保たれているからゴミ捨てるような気持ちにならないのかも。住民の方々のゴミ捨てるのルールもきちんとしてられています。

私がここに引っ越してきて感じたことは、並木に住む方々には「緑の中に人間が住まわせていたたいっている」

というケヤキ並木に感謝する気持ちと「大門(鬼子母神の門前)に住まわせていただいている」という誇りがあるということ。だから、落ち葉掃きしたり、そうしをしてキレイにすることは当たり前という感じでしょうか。

Q: もしもお引こしするようなことがあったら、また並木など近所に木々のあるところに住みたいですか？

A: (子) もっと畑がいっぱいある、田舎で広いところがいい。

A: (親) また並木や緑があるところに住みたいです。

Q: もしも並木にケヤキ以外の木も植えられるとしたら？

A: (子) サクラ!!

A: (親) サクラか、落ち葉の少ない常緑樹。

Q: 今後、大門ケヤキ並木にどうなっていてほしいですか？

A: (子) かわってほしくない。ずっとケヤキに元気でいてほしい。

A: (親) 私も同じ気持ちです。

ありがとうございました！

6. 調査しながら新しく学んだこと

「草が大きくなったものが木なめではなく草より木の方が古い」。海から上陸した植物の祖先が「コケ→シダ→針葉樹→広葉樹と進化しながら乾いた土地に進出し、広葉樹から宿根草が生まれた。動かずに何十年も一つの身体で生き続ける木よりも短いスパンで枯れたり芽生えたりできる草の方が、環境の変化に対応しやすく生き残りやすい。

「常緑樹の方が落葉樹より強くみえるが逆」

落葉樹のみきや枝には落葉後のために栄養を蓄えておく細胞があるが、常緑樹はなまじいとも葉があつて光合成ができるため、この細胞が少なく、伐採などで急に葉がへると致命的なダメージを受ける。

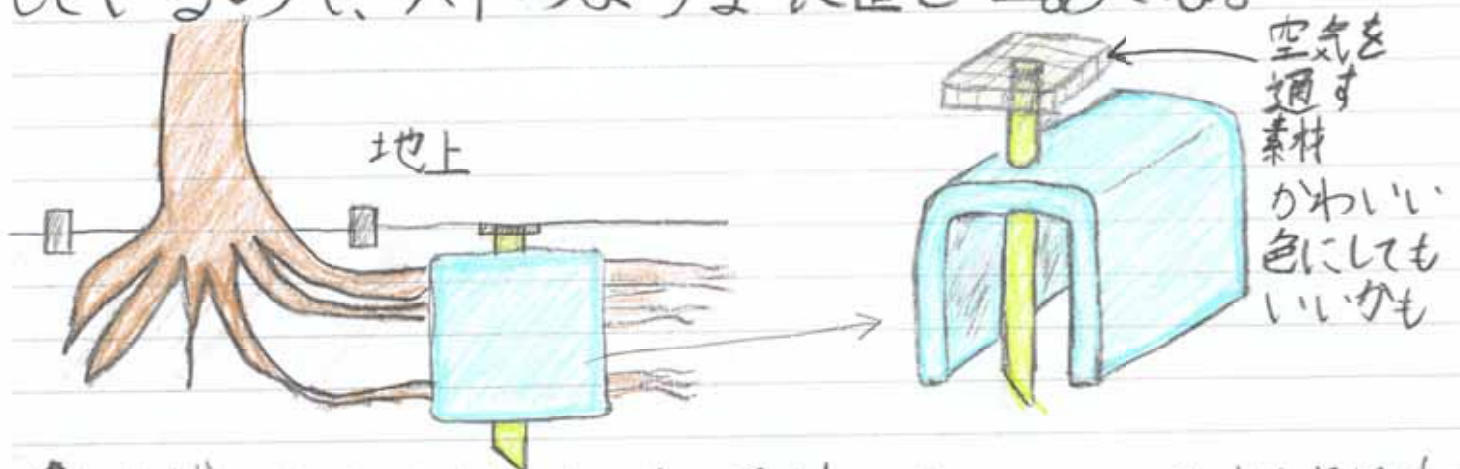
「剪定を夏前にしてしまうと、一番暑い時期に日陰がでず、木を含む生態系をこわしてしまうことも。予算の都合で一回にまとめて剪定すると弱る場合もある。剪定に強いといわれる木も、生きるのに必死なだけで、枝葉以外にしわよせがいく。

7. おわりに～ゆめの並木道

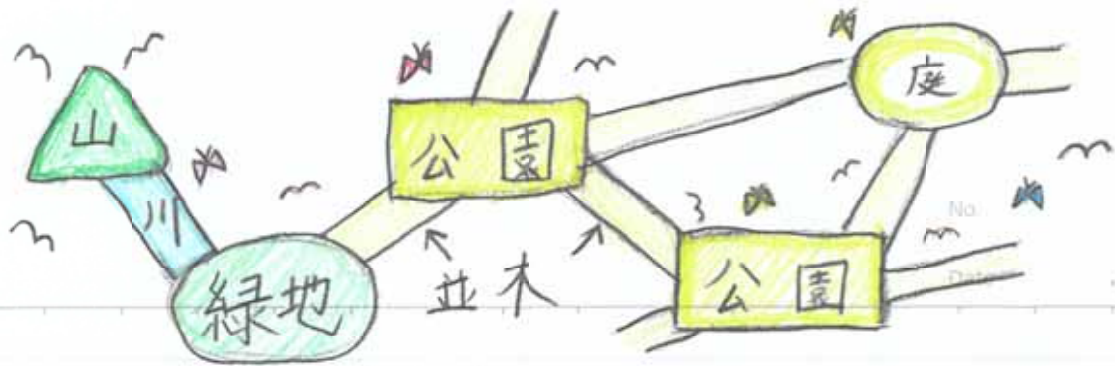
木や草のことが好きなのに、つい「いたけれど、かいろじゅのことを思い込みで見てしまっているところがあることに気づきました。表面に見えているものより、見えないところに大切なものがあること。一本の木の中に長い時間がつまっていること。動物と植は時間の流れも意識も違うこと。木も人間も幸せになれる並木道ができるのか、考えてみました。

◆根を大事にする

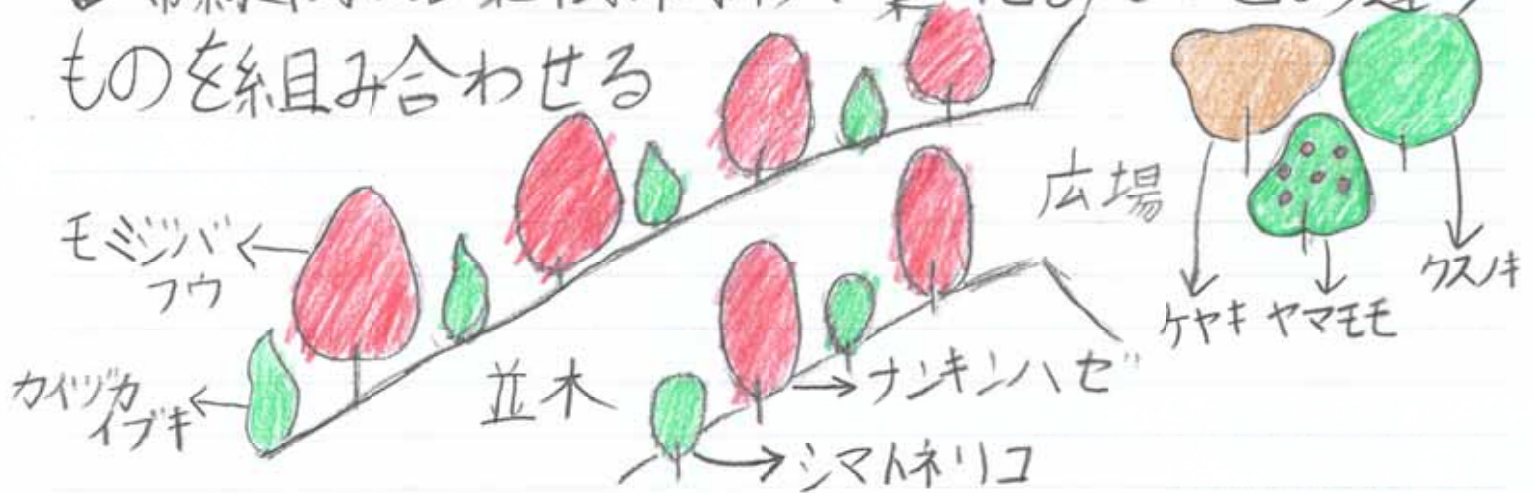
かいろじゅの根は地中に共同管などがあるため伸びる場所が制限されていて、呼吸のための空気も不足しているのです。以下のような装置を埋めては。



◆かいろじゅが今何をしているのかを説明する。ネームプレートで説明したり、森とのつながりをたどるイベントを催したい。



◆常緑樹と落葉樹、樹形や葉・花・みぎの色の違うものを組み合わせる



◆住民も通行人も一緒にお世話やそらじに参加できる機会をつくる。(流行している、出勤前の座禅のように)子供も大人もできる時に立ち寄り、住民の方とお話しながら参加する。

◆ひとつひとつの木に物語があるので、知っている方に語ってもらったり、その木をテーマにしたおはなしのコンクールや写生大会を開催したりする。

◆並木や大きな木のスタンプラリーや紅葉の季節に何色だったかぬってもらったりえらりーを開催する。

がいろいろに親んでもらって並木道と一緒に暮らしていく工夫、まだまだできそうです。これからも観察と研究を続けて、ゆめの並木道に近づきたいです。

参考文献

「絵でわかる樹木の育て方」(堀大才/講談社)

「大人の樹木学」(石井誠治/洋泉社)

「樹の手帳」(岩谷美苗/東京書籍)

「五感で調べる木の葉はずかん」

(林将之/ほるぷ出版)

「街路樹を楽しむ15の謎」(渡辺一夫/築地書館)

「街路樹デサイン新時代」(渡辺達三/裳華房)

「街路樹の散歩みち」(多田多恵子/山と溪谷社)

「街路樹の呼び名事典」(亀田龍吉/世界文化社)

「樹木ハカセになろう」(石井誠治/岩波書店)

「図解樹木の診断と手当て」(堀大才/農文協)

「都市建築物の緑化手法」(東京都新宿区/彰国社)

「都市緑花」(近藤三雄/講談社)

「葉で見分ける樹木」(林将之/小学館)

「街の木のキモ知」(岩谷美苗/山と溪谷社)

「みちかな樹木のえほん」

(国土緑化推進機構/ポプラ社)